



転生したらサキユバスになった





「危ない！」
「え？」

あれ……身体が……動かない……
目の前が……暗く……な……て……行……く……



もしかして俺…

轢かれたのか…？

嘘…？もしかして…

俺…死ぬの…？

「おい」

ん？

「おい」

誰か呼んでる？

もしかして…俺…生きてる？

「お？気がついたかな？」

え？

あれ？声が出ない。。

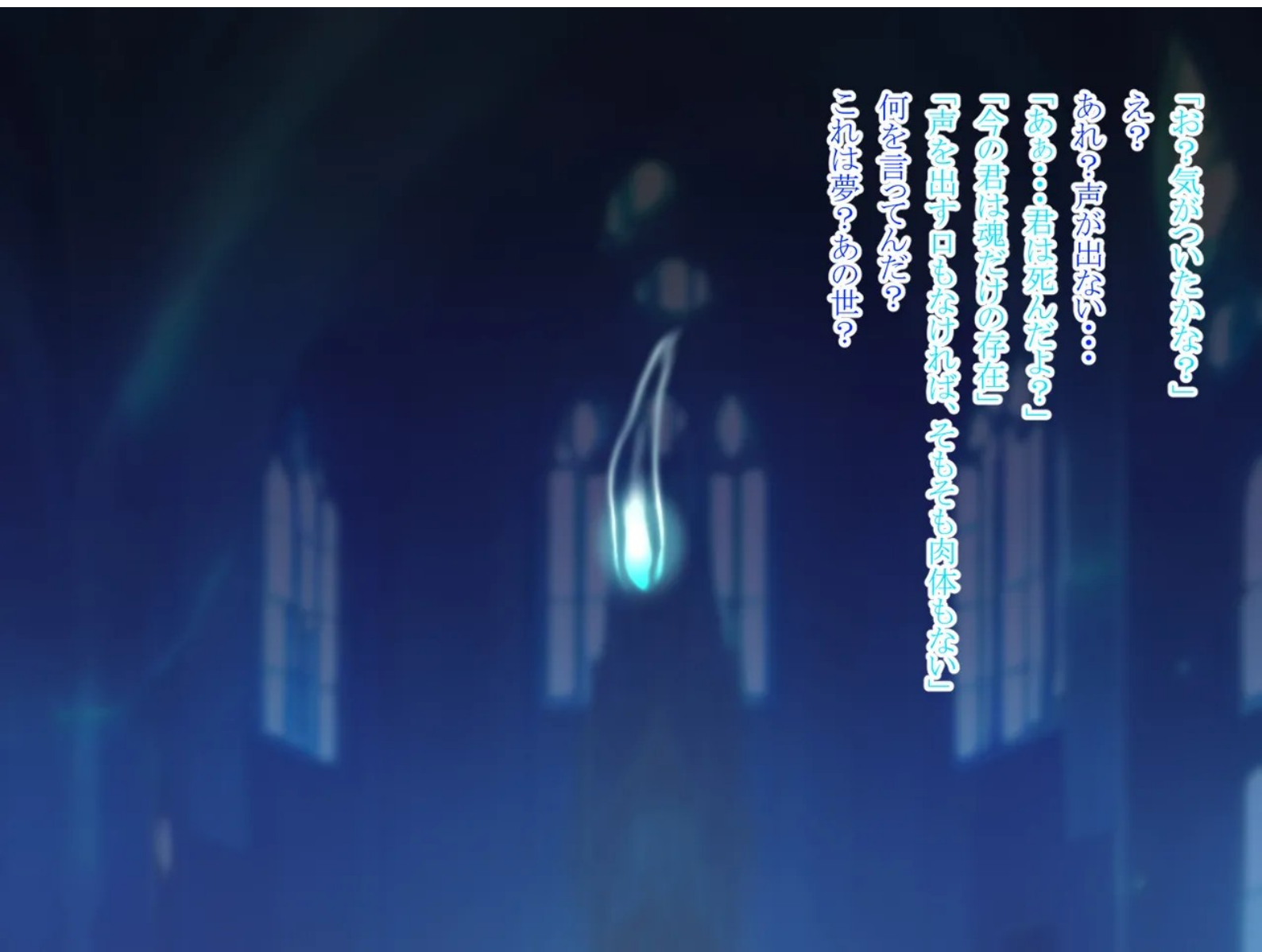
「ああ。。君は死んだよ？」

「今の君は魂だけの存在」

「声を出す口もなければ、そもそも肉体もない」

何を言ってるんだ？

これは夢？あの世？



「ふふ。あの世かーま、それでもいいかもね」

じゃあ、本当に俺は…。

「だから死んだって言ってるだろ？」

「それに…こんなどで時間を使っちゃ読者が…。」

読者…？

「ああ…なんでもない」

『単刀直入に言おう?』

『君はこれから別の世界でサキユスちゃんとして生きてもらうから』

え? サキユス...?

『時間がないからね!』

『じゃあ、あとはよろしくね』

え!?! ちよつと!



「お！新人りかな？♡」

「え？え！？」

「なんだ！？このエロい服装のお姉さんは！？」

「どうしたんだい？」

「そんなにびびりして♡」



『え……いや……』

『そのなんだか訳がわからないというか……』

『ふふ♡ああ……なるほどね♡』

『たしか、君は元々人間で……』

『この世界に転生って形で来たんだもんね♡』

『たしかにいきなりこんな状態だ……』

『仕方ないかもね』



「説明もするもの大変だ」

「きつと今のままじゃすぐには理解できないかもしれない」

「まずは身体チャック…♡」

「この世界の説明と君の使命は追々教えて行くよ♡」

「その方が理解も早い♡ふふ♡」



「ちよつと失礼♡」

「ふぁ!?!」

「ふふ♡ちよつとくすぐりたいかもよ♡」

「我慢してね♡♡」

いきなりなんだ!?!



「うん♡なかなかいい身体だね♡」
「これなら沢山の男から精気を奪えそう♡」
「ちよつと…やめて…」
「ダメだよ♡これは大事なことから♡」
「しっかり調べないと♡」





「ひゃっ！」
「いいおっぱいだね♡」
「おま●こもこんなに綺麗♡」
「男とやる前に私が味見しちゃいたいくらい♡」
「なんで身体が女みたいに。。。!?」
「これは現実なの？」

「もっと色々調えないとね♡」
確かにさっきから変なことを…
本当に俺は転生して…
さ、サキユスに…？



「あら？だんだんこの状況がわかってきたかな？」
「さっきより顔が冷静になってきたみたい♡」
「これ…現実なんですか？」
「ふふ♡うん♡そうだよ♡」





「ほら♡」

「はあっ♡」

「ここ♡無いでしょ♡おち●とん♡」

「その代わりにおま●こ♡になっ♡て♡」

「なんだこの感覚…味わったことないくらい…」

「気持ちいい…♡」

「42♡」

「ジュッ」

『でもラッキーだね♡』

『サキミスの感度は人間の何倍もいんだよ?』

『男からいきなりサキミス♡』

『これからは気持ち良過ぎて頭おかしくなるかもよ♡』

人間のときよりも…何倍も…

『はぁ…はぁ…』



『君。。。いいサキマスになれるよ♡』
『はぁ。。。はぁ。。。』



『それじゃ...』
『次は実技♡』
『え？実技って...』



「ふふ♡実際に男とやってみるんだよ♡」
「まあ、セン○ス○が○いい♡」
男と…嘘…
俺が…？無理だろ…そんなの…



「でもいきなりやると言っても難しいから」
「私が下準備してあげる♡」
下準備。。。?



「それじゃこの男を使ってやってみようね♡」
「さっき捕まえたばかりの男だから新鮮だよ♡」



「ふふ♡大きくなってる♡」
「もうこんなにあって…♡」
「早くして欲しくてたまらないんだね♡」
「じゃあ…♡」





「んはぁ♡」
「ビクビクして可愛い♡」
あれ…なんだこの感情…
あの男の…どうして…
あんなに美味しそうに…

「早く喰えて欲しい？」
「はぁ…はぁ…」
こんなにドキドキして…
俺…なんか変だ…





「はむ……♡」
「ふふ♡イクンでなれた♡」
「私の回の中気持いい？」



すごい…音…
こんなエッチな音…初めて…
男もすごい気持ち良さで…



「まだ出しちゃダメだからね?♡」
「君はあの子の練習台だから...♡」
「あの子より先にいっちゃダメだよ♡」



「あはあ……♡」
「フェリスはこれで終わり♡」
「これから、あの子とたくさん気持ちよくなってね♡」
「練習だからたくさん我慢してもらわないとだげど……」
「頑張つてね?♡」



『それじゃ…早速♡』
『セッ○ス…してもらおうか♡』
『えっ…』
『ふふ♡緊張しないでいいから♡』
『本能のまま…♡』



「早く入れてあげないと…」
「男がかわそうだよ♡」
「い、入れるって…」
「ほら♡彼の上に跨って…♡」



「はぁ…はぁ…」

本当に…ここに…

「そのまま…腰を下ろすの♡」

嫌なはず…なのに…

どうして…どうして…

俺は…入れたいと思ってるんだ…?

「はぁ...あつ」
当たってる...
他人のち●ぽが...俺の...
「ゆづりでもいいからね♡」
「そのまま入れて...♡」



「あつ……はあ……あつ……」
入ってきてる……中に……
なにこれ……き、気持ちいい……？
中を押し広げて……どんどん奥に向かって……
「いよいよそのまま♡」



「はぁ…はぁ…」
「入った…入っちゃった…」
「つながったね♡」
「次は腰を動かして♡」
「君はできるだけ我慢♡」
「すぐに出したらダメだよ♡」





「あゝ...」
グワッ...中...
この感じ...やばいかも...
「そっ♡あげたら...次は下げる♡」



「はぁっ...」
「ふふ♡可愛い声出しちゃって♡」
「初めての体験はどうっ♡」
「気持ちいい♡♡」
「どうしよう...」れ...
「すごく気持ちいいかも...」



「ふふふそんなペースでいいのよ」
「ふふ」
「そんなじゃ...」
「主導権奪われちゃらうよ」



「ひゃっ!？」
「あんなペースじゃ満足できないって♡」
「ちょっと待ってーっ!」



「うっ!はあっ!」

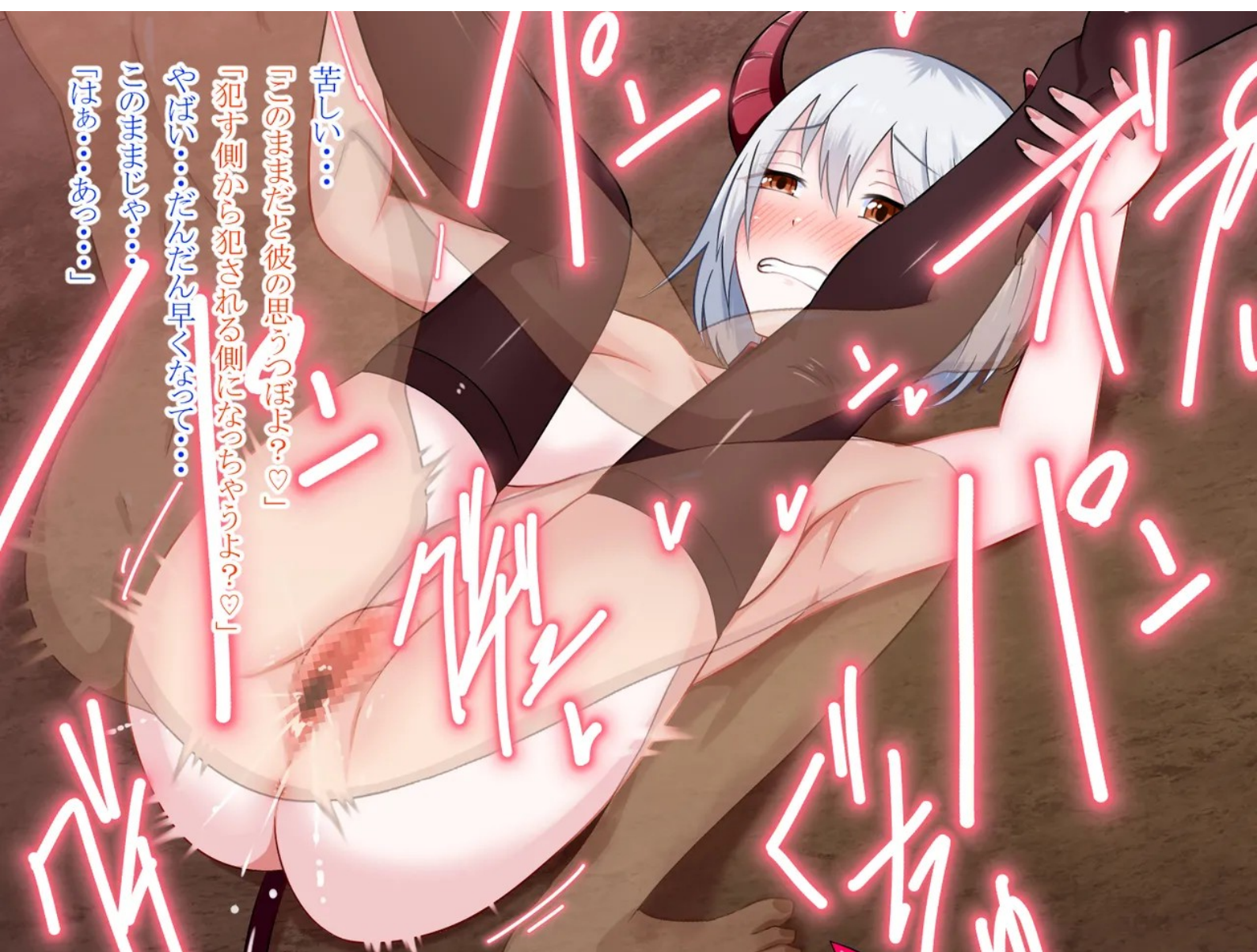
こんな体勢で...

身動きが...とれない...

「あらら♡」



恥ずかしい…
こんなの…どうしよう…
恥ずかしいのに気持ちいい…!!
「や、やめっ!」
「んっ!はあっ!」



苦しい...

「このままだと彼の思うつぽよ?♡」

「犯す側から犯される側になっちゃうよ?♡」

やばい...だんだん早くなって...

このままじゃ...

「はあ...あつ...」



さつきより硬いし、デカイし...
それに熱い...



「うっ！はあああつ！？」

熱い…熱いのが…！！

出てる！？中で何かが！？

「あら♡彼…いっちゃったみたい♡」



「あっ...はあ...」
ビクン...ビクンって中で
脈打ってる...
本当に中に出ちゃったんだ...?



「何休んでるの？」
「彼はまだ元気みたいだよ?♡」
「え?」



『えー？まだやるのー？』
『あはは♡』
『当然だよ♡相手はサキユスだもん♡』
『男は限界までやり続けるの♡』
『そんなー？』





『さっき出された精子が溢れちゃってるよ?』
『もったいないなあ♡』
『しっかり締めてあげないとたくさん回収できないよ?♡』
『そんなこと...言われても...』
『全然...無理...』
『はあ...あッ』







「おっ……」
「あはは♡」
「また出た♡」
「男の子気持ち良さそう♡」



『あは〜♡』

『またこんなに零しちゃって♡』

『しっかり締めないと勿体ないな♡』

『はぁ…はぁあ…』

『まだやれそう♡♡』

『男はやりたいみたいよ♡♡』

『まだ…？そんなの…』

『ふふ♡無理そうね♡』

『いいよ♡じゃあ…私がお手本を♡』



『そこに横になりな♡』
『今度は私が相手してやる♡』



『欲望のまま出すんだよ♡』
『私がお前の全部受け止めてあげる♡』
『ほら♡おっぱいも触っていいぞ♡』
『どう？柔らかいだろ？♡』

『そのまま気持ちよくなってるね♡』
『我慢もしなくていい♡』
『出したい時に出して♡』
『そしてそのまま逝っちゃって♡』
『それじゃたくさん動くよ♡』





「ああ♡はあ♡」

「敏感になつてゐるおち●ちゃんにはかなり刺激が強いかな?♡」

「そんな苦しそうな顔して♡」

「興奮しちゃうよ♡」



「締めてあげるからどんどん」
「気持ちよくなってるね♡」
「ほらほら♡」
「気持ちいいだろ♡♡」
「私のおま●♡」



「あはは♡」

「もうおっぱいは揉まなくてもいいの?♡」

「すごい...どんどん男の体力が...」

「きつと、もう腕に力が行かないんだ...」

／／タ...



「んっ♡ふふ♡」
「出てる出てる♡」
「まだこんなに残ってたんだね♡」



「一滴残らず出すんだよ?♡」
「この感じならまだ残ってるたる?♡」
「ほら休まずに出しきるんだよ♡」
「ほら♡ほら♡」
「もぐもぐ♡」



「うんん♡はあ♡」
「やっぱり中出しされるの気持ちいい♡」
「身体に染みる♡」
「はあああ♡」
「すい…気持ち良さそう…」



「あはは♡」
「もっと出しておくれ♡」
「空っぽになるまで♡」
男の様子が…血色が…





「はぁ♡逝っちゃったか♡」
「まあ10回以上も私とやったら仕方ないか♡」
「最後なんてもう水しか出てなかったしね♡」



「やあ♡」

「これがサキマスズの仕事♡」

「やあやあ♡」

「やあ♡」

「やあ♡」



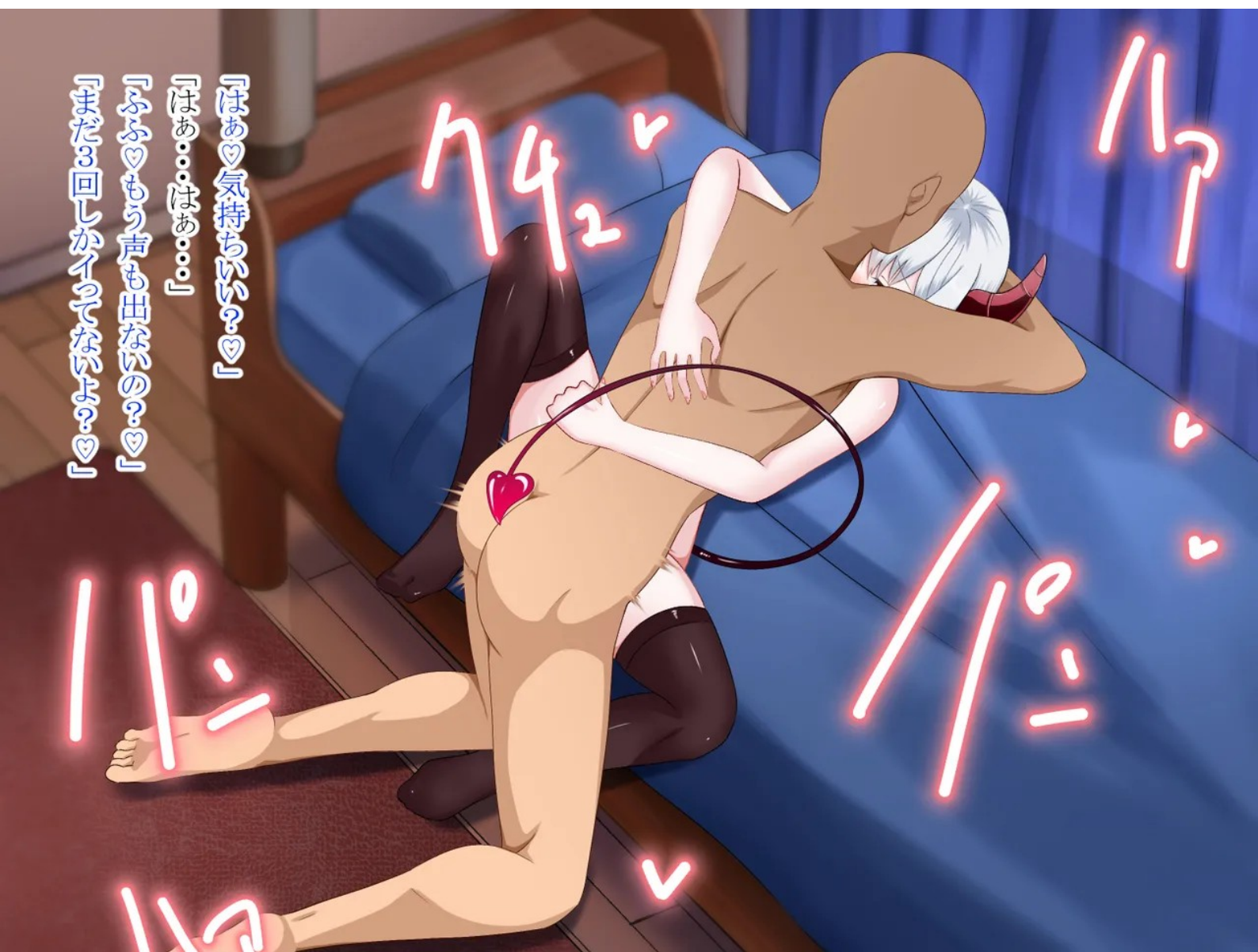
「しばらくは…」
「私が男用意して」
「毎日やっていくのがいいかな♡」
「大丈夫♡慣れればあなたも」
「立派なサキマスになれるよ♡」



本当に大丈夫かな。。。？

数日後

「はぁ♡気持ちいい♡♡」
「はぁ…はぁ…」
「ふふ♡もう声も出ないの?♡」
「まだ3回しかイってないよ?♡」





「ほら♡休まないで♡」
「たくさん腰振ってよ♡」
「サービスでもっと締めてあげる♡」
「もっと中に出て♡」
「ね?♡」

「私も動くの手伝ってあげる♡」
「君は気持ちよくなる」とだけに集中♡」
「それ以外は考えないで♡」
「というかもう考えられないか♡」





「うわっ」
「出っ♡出っ♡」
「濃いのがたっ♡ん♡」
「この出されてる感覚♡
最高に気持ちいい♡」



「はぁ♡」
「もふもふ あれ♡」
「もふもふ♡」
「あれ？ 逝っちゃったの♡♡」
「残念♡」

『次の男探しに行かないと。。。』





「今日は2人だね♡」
「それにしても」
「もう一人前のサキミバスだね♡」
「おかげさまで♡」

「育てた甲斐があったよ♡」
「それじゃ行くっか♡」
「うん♡」



「はぁ♡」
「みんなで気持ちよくなるっね♡」
「今宵は長くなるといいな♡」
「頑張ってね♡♡」





「この挿入する瞬間♡」
「これ好き♡」
「わかる♡私も大好き♡」



「んんっ!?!♡」
「ちよつと♡入れただけでイっちゃった♡」
「だらしない男♡」
「ちよつとは私たちを楽しませてよ♡」



「はぁっ♡」
「こっちもイっちゃったみたい♡」
「あはは♡情けなす♡」



「ああ...」
「いくら出しても止めないから♡」
「命尽きるまで射精してね♡」
「それじゃ♡また動かすよ♡」





読んでいただきたいと思いますー！

次のページからおまけページになりますー！

まへ













































